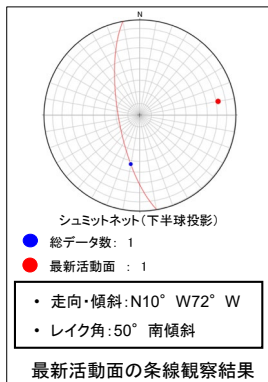


H24-H-13 深度8.89~9.80m K断層

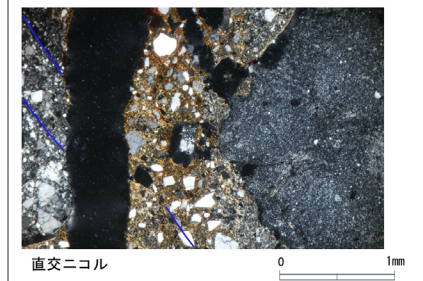
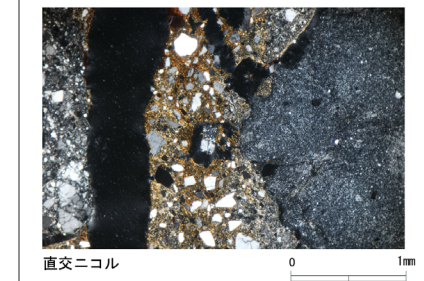
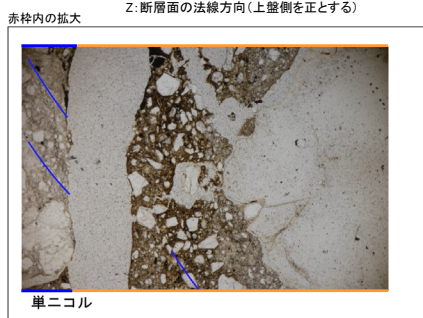
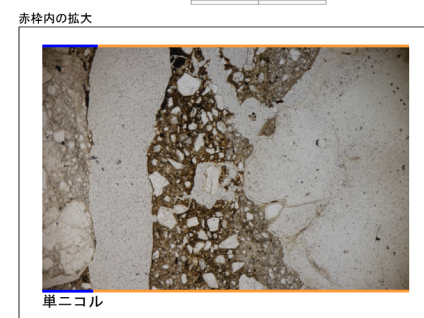
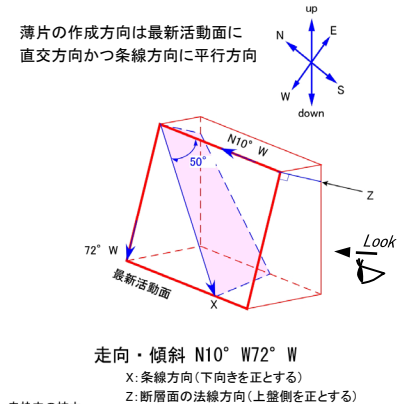
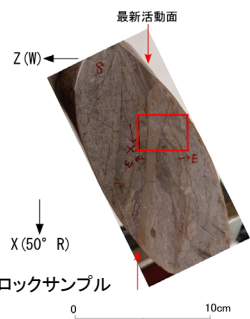
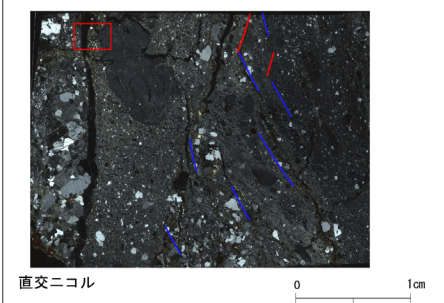
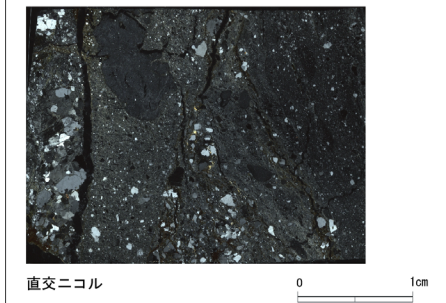
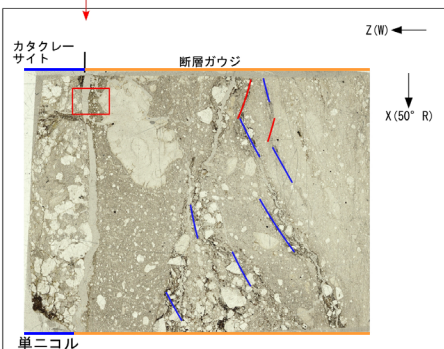
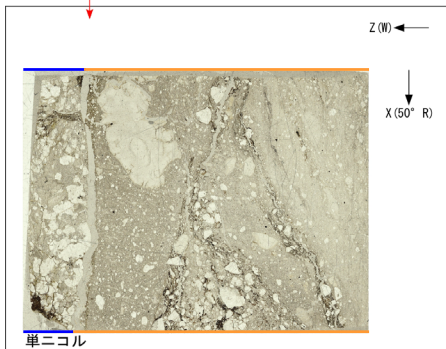
・H24-H-13のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度8.89m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



↑ 最新活動面
↓

↑ 最新活動面
↓



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

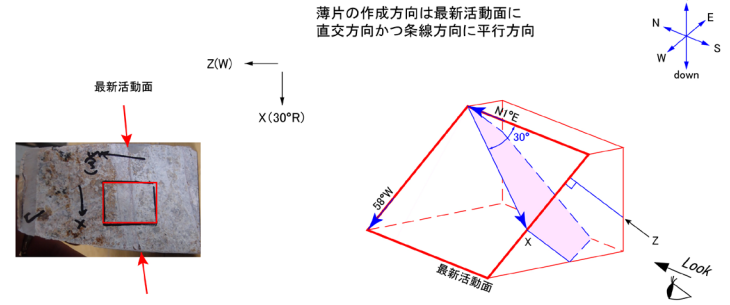
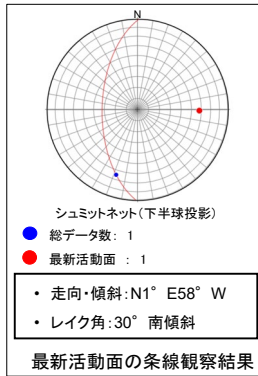
H24-D1-1

余白

H24-D1-1 深度45.91~48.28m 非モデル化破砕部

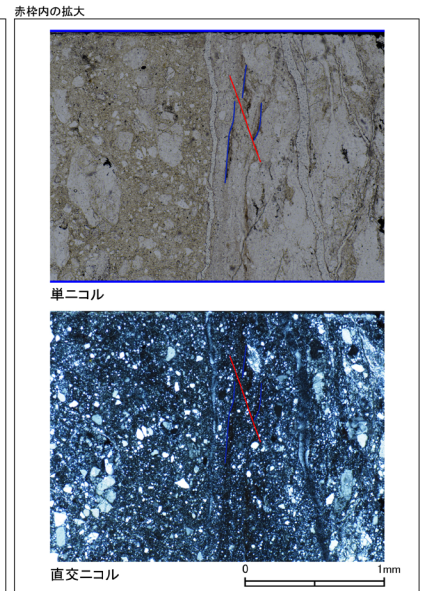
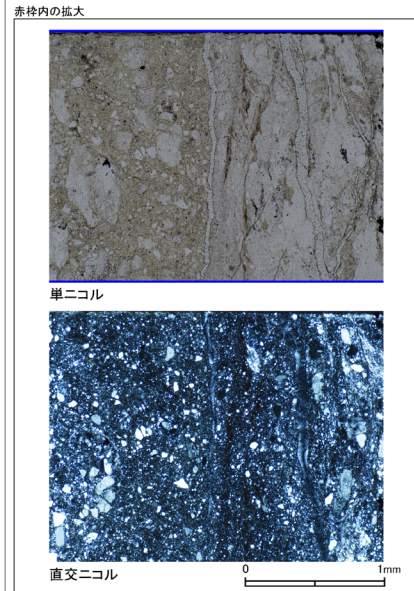
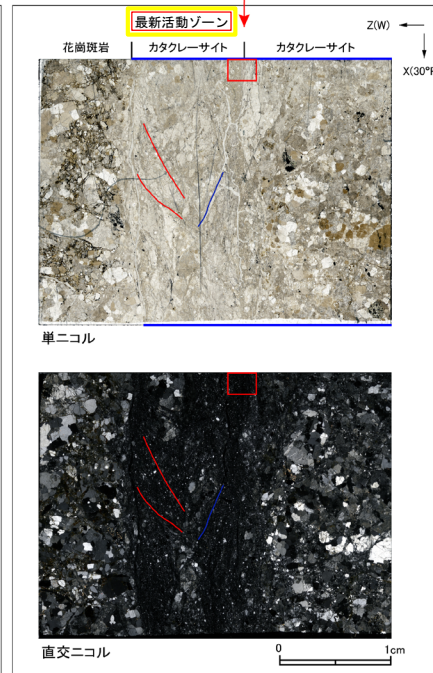
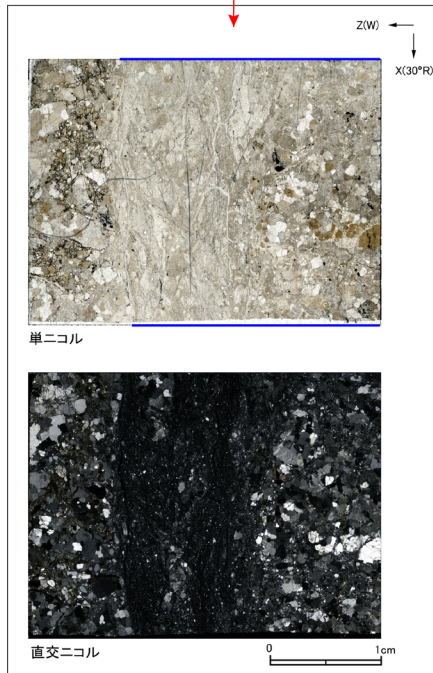
- H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度47.65m)の変位センスは、左ずれを伴う正断層※である。
- 薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

※ 横ずれ成分と縦ずれ成分の両者が見られる場合、「右(又は左)ずれを伴う正断層(又は逆断層)」と記載している。(以下、同様)



0 10cm
ブロックサンプル

走向・傾斜 N1°E 58°W
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

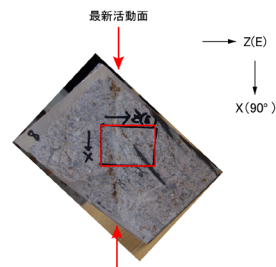
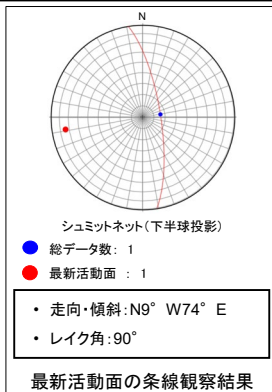


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

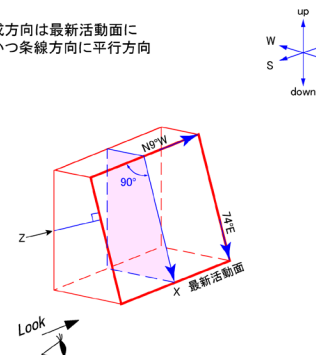
H24-D1-1 深度49.20~49.91m 非モデル化破砕部

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度49.84m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N9°W 74°E

X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

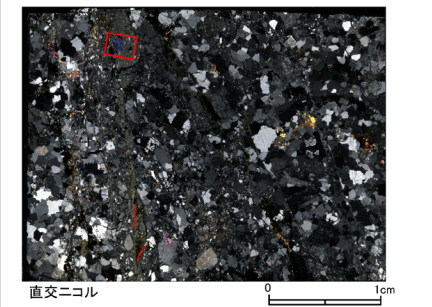
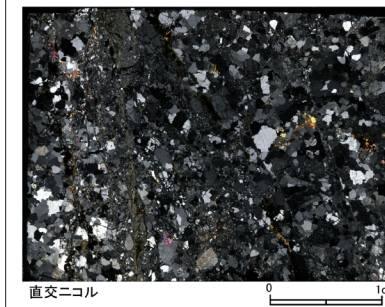
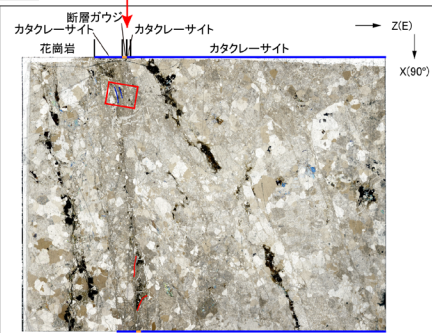
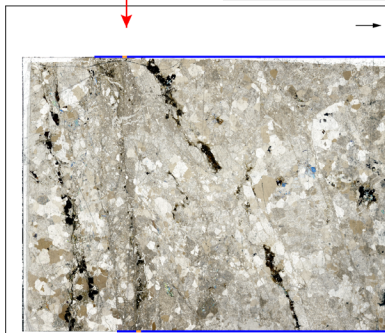
0 10cm
ブロックサンプル

↑ ↓ 最新活動面

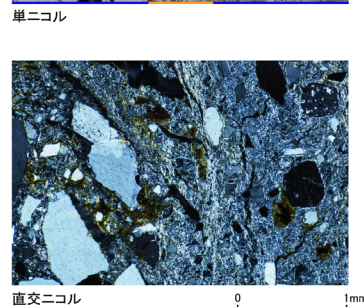
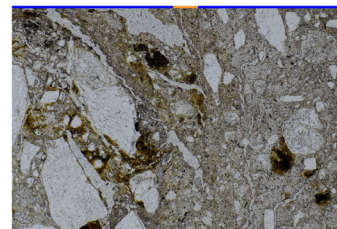
最新活動面の条線観察結果

↑ ↓ 最新活動面

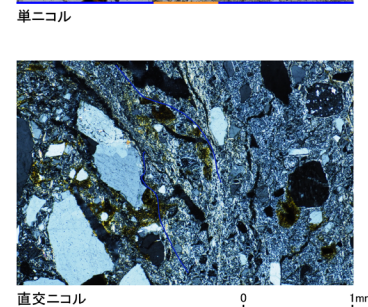
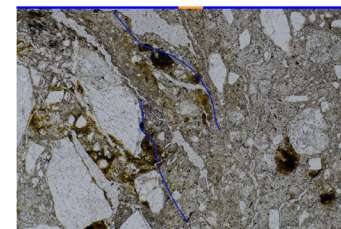
断層ガウジ
カタクレーサイト
花崗岩
カタクレーサイト



赤稜内の拡大



赤稜内の拡大



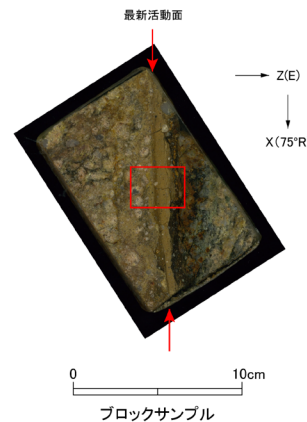
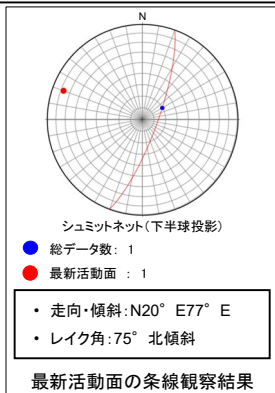
凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

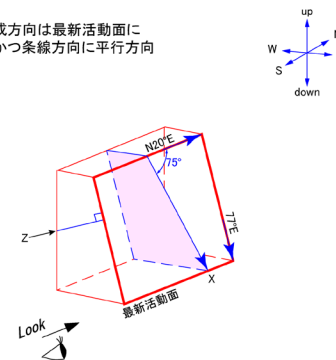
H24-D1-1 深度53.77~54.54m 非モデル化破砕部

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度53.77m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

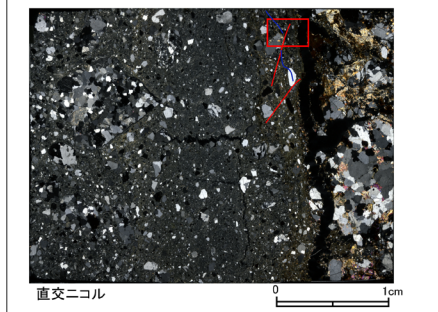
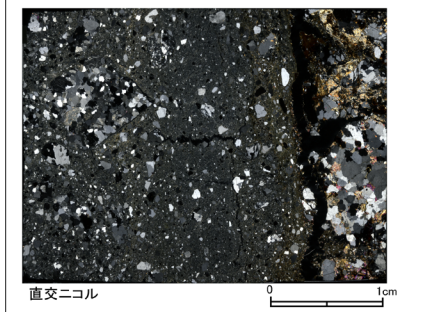
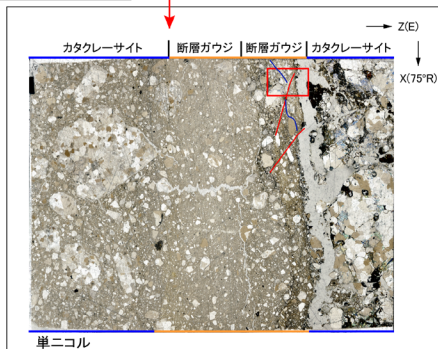
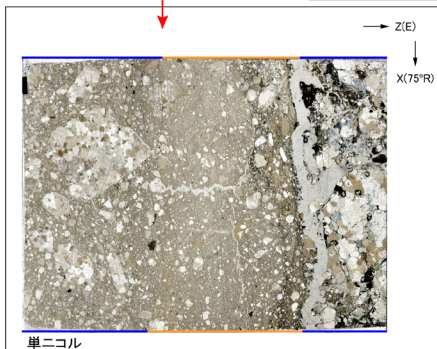
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



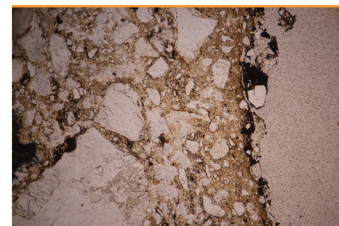
薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



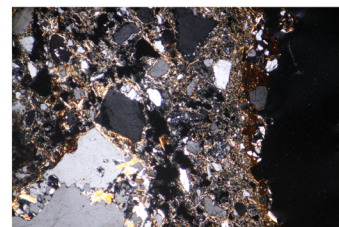
走向・傾斜 N20°E 77°E
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大

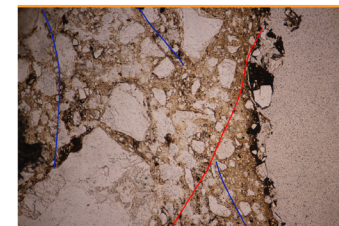


単ニコル

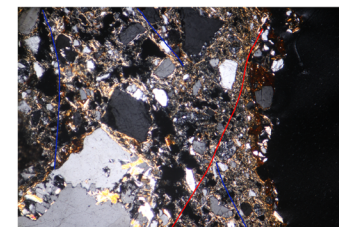


直交ニコル

赤枠内の拡大



単ニコル



直交ニコル

凡例

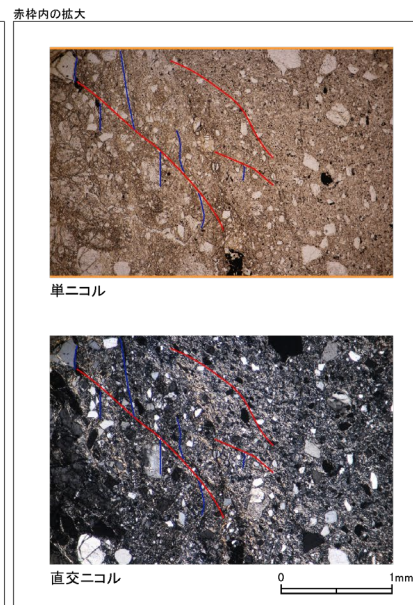
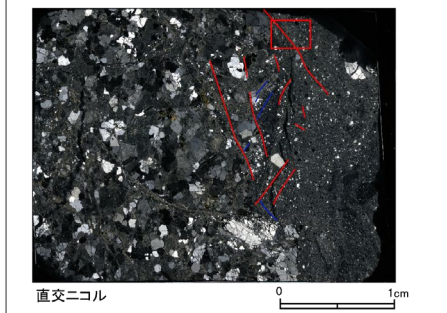
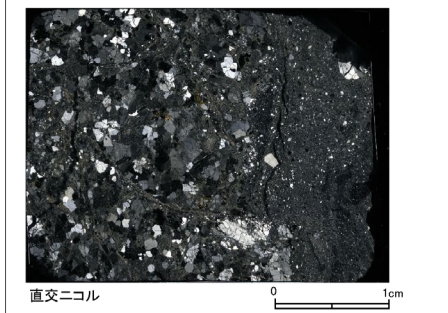
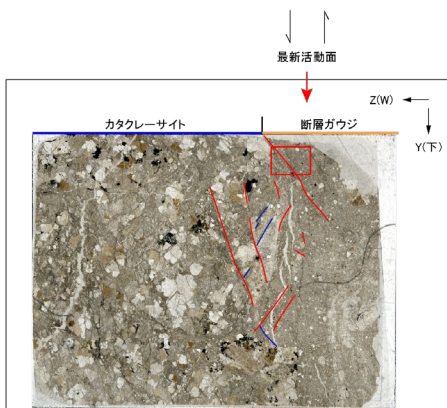
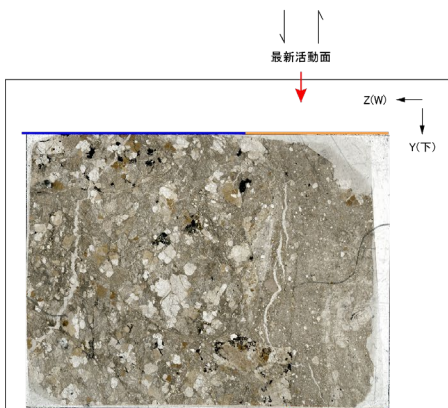
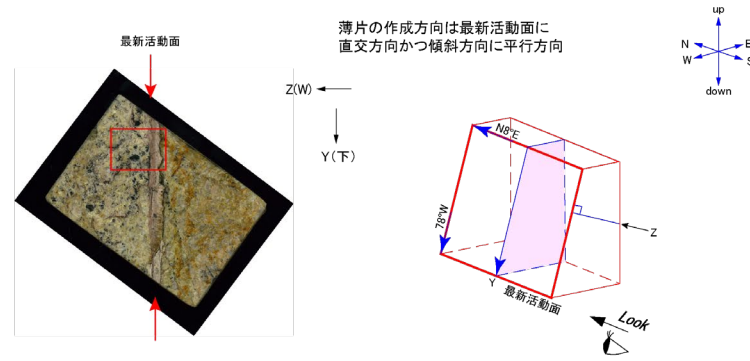
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-D1-1 深度58.96~59.30m 非モデル化破砕部

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度59.16m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

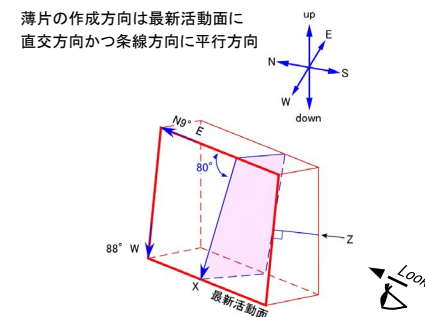
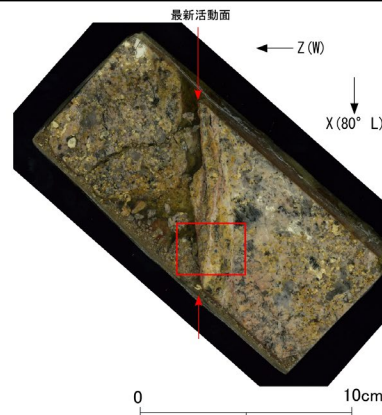
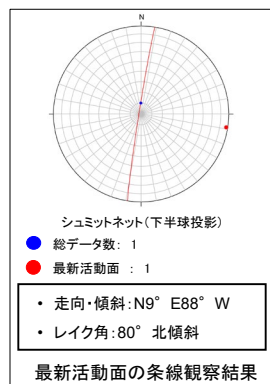
条線データなし



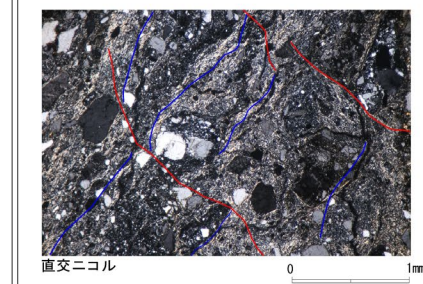
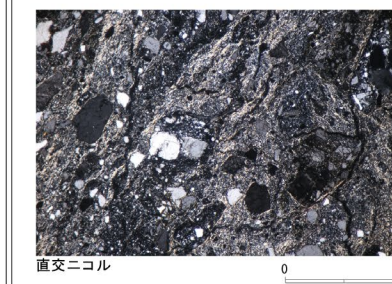
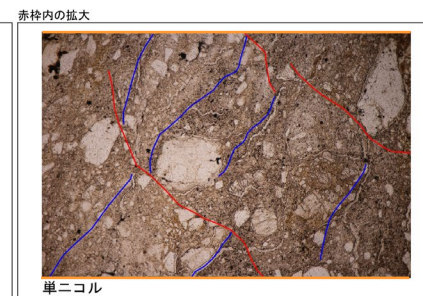
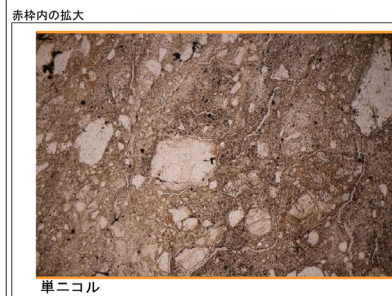
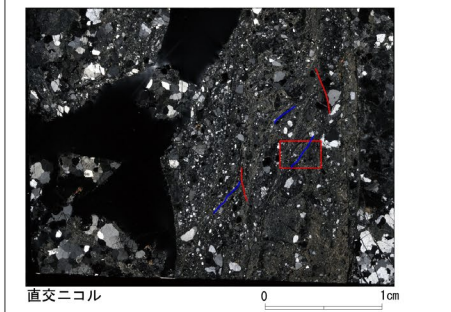
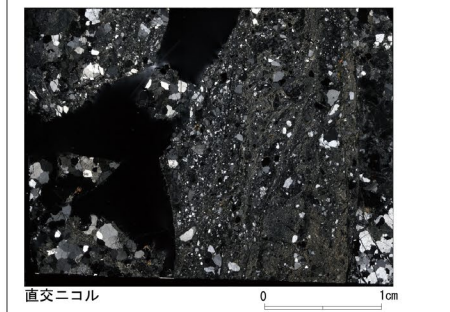
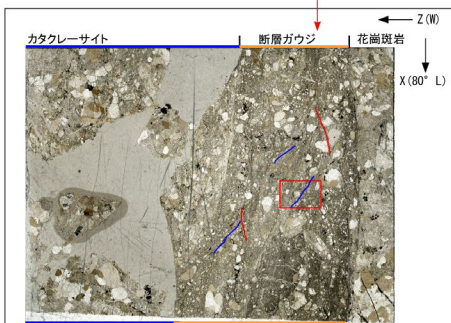
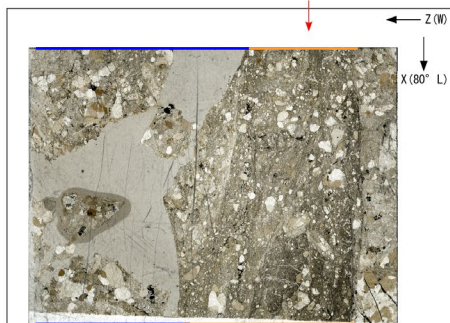
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-D1-1 深度60.12~60.15m D-1破砕帯

・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度60.12m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



走向・傾斜 N9° E88° W
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面